

# 芝生管理業務

別紙 2

## 1 一般事項

### (1) 植物への配慮

作業にあたっては、対象植物の特性、活力及び環境条件などを勘案し、生き物としての植物に対する細心の注意と愛情をもって作業を行い、その目的を達するよう努める。

### (2) 植物への配慮対象区域

区 域	芝生管理面積
矢 道	3 5 0 m <sup>2</sup>
中 庭	2 7 0 m <sup>2</sup>
合 計	6 2 0 m <sup>2</sup>

### (3) 施工時期

各作業は天候、育成状態を考慮し、最大の効果が期待できるよう、管理計画のうえ最も適切な時期を選び進める。

### (4) 法令等の遵守及び手続き

- ① 作業施工にあたっては関係する法令、条例及び規則等を遵守し、作業の円滑な進捗を図ること。又官公署への必要な届出手続き等はすみやかに処理しなければならない。
- ② 作業施工を実施する場合は、関係官公署、付近住民、来訪者に事前に通知するものとする。

### (5) 材料の管理

搬入した材料は、損傷、枯損することのないよう適切な措置を講ずる。

### (6) 管理作業用機械器具等

作業用の機械器具、道路類は、各作業に適するものを使用する。

### (7) 現場の安全管理

- ① 作業の施工にあたっては、来訪者等の危険のないよう充分注意して行う。
- ② 作業の施工にあたり、施設、樹木等を損傷しないよう充分注意して施工する。
- ③ 作業の施工にあたっては、労働基準法及び労働安全衛生法に基づき実施すること。

## 2 芝生地管理

### (1) 刈込み

- ① 刈込みは、芝生地内にある樹木、株物、施設等を損傷しないように注意し、刈りむら、刈り残しのないよう均一に刈込む。
- ② 刈込み高は利用者が快適に利用できるよう留意し、指定管理者の判断で行う。又、モアの刃は良くラッピングを行い、セットも正しく、刈り跡に筋が生じないようにすること。
- ③ 刈込みの方向は常に変え、肥料散布直後の刈込みは行わない。
- ④ 刈りとった芝は、指定箇所に集積し、まとめて処理するとともに、刈跡はきれいに清掃する。
- ⑤ 縁切りは、指定管理者の判断のうえ、対象灌木、施設等にはふく茎が進入しないよう、灌木類にあたっては樹幹より 10m 以外の幅で垂直に切り込む。
- ⑥ 刈込みは 5 月から 10 月にかけて行うものとする。

### (2) 施肥

- ① 所定の施肥量を芝生面にむらのないよう均一に散布する。散布は原則として手撒きとし、各回とも縦横 2 回に分けて散布し、1 回の施肥量の 5% 程度を残し、1 週間後にむらなお

しの肥料として使用し、均一な施肥とすること。

② 施肥は降雨直後又は朝霧で芝面が濡れている時は行わないこと。

(3) 除草雑物除去

- ① 芝生をいためないよう、除草ホークなどを用いて根より丁寧に抜き取る。
- ② 抜き取った除草は、毎日指定箇所に集積し、まとめて処理するとともに、除草跡はきれいに清掃する。
- ③ 各刈込みの前に、小石、塵等を拾い、機械の破損を防止する。
- ④ 芝刈機に於いて刈込みの出来なかった部分を人手で刈ること。
- ⑤ 手取除草の時期は指定管理者の判断のうえ行うものとする。

(4) 除草剤散布

- ① 希釈液は指定の濃度となるよう正確に希釈混合し、指定量をむらなく均一に散布する。
- ② 散布日は、風、日照、降雨等の天候条件を考慮し実施する。
- ③ 芝生地内の灌木、草花、来訪者及び隣地等にかからないよう充分注意して行う。

(5) 病虫害防除

- ① 2－(4) 除草剤散布に準じて行う。
- ② 殺虫剤・殺菌剤散布時期については最も適切な時期や方法を選び実施するものとする。

(6) 目土かけ

- ① 土は植物の根、ガレキ、赤土等がなく 2 c m 目程度のふるいにより、ふるい分けた目土用土を用いる。土壌改良剤及び肥料を混合する場合は、指定の混合率となるよう入念に混合する。
- ② 目土用土は指定の厚さにとんぼ等を用いて、むらなく均一に充分すり込む。なお、芝生面に不陸がある場合は、不陸調整を勘定しながら行う。又、この時出る土のかたまりや小石は除去する。
- ③ 目土は場所の通路まで車両で搬入し、芝生内は小車運搬とする。

(7) 補植

- ① 補修箇所を大きめに形を整えて切取り、深さ 15 c m 程度まで床土を交換したうえ沈下防止のためよく転圧する。
- ② 張芝にあたっては、周縁同じ高さになるよう調整し転圧、目土を施しよく灌水する。

3 芝生管理基準表

項目	回数
刈込み	年 8 回
施肥	年 3 回
除草剤散布	年 2 回
殺虫剤散布	年 2 回
殺菌剤散布	年 1 回
ランナー切	年 1 回
サッチング	年 1 回

※その他

除草剤・・・発生時期や効果の薄いところは、その都度スポットで散布する。

殺菌剤・・・病害が発生すれば、それに対応する殺菌剤をスポットで散布する。

手取除草・・・芝生内の雑草は発芽時期に状況に応じて、年に 1 ～ 2 回手取り除草を行う。

刈葉処分・・・処理後は速やかに処分を行う。

※上記基準回数を基本に、天候・芝生の育成状況等に応じて適宜回数を増減すること。